

第一回 古文単語テスト

年 組	番	氏名	0 点
-----	---	----	-----

一．下線部の単語または表現を現代語訳しなさい。（語形は問わない）

- | | |
|--|----------------|
| (1) 門 <u>強く</u> させ。〈284〉 | (1) 閉める |
| (2) ゆゆしき身 <u>に</u> 侍れば、(若宮ガ)かくておはしますも、いまいましう、かたじけなくなむ。〈77〉 | (2) 不吉な |
| (3) 昔、男、初冠して、平城の京、春日の里に、しるよしして、狩りに住にけり。〈181〉 | (3) 土地を領有する |
| (4) 野分の <u>またの</u> 日こそ、いみじうあはれにをかしけれ。〈329〉 | (4) 翌日 |
| (5) ここに侍りながら、御とぶらひにもまうでざりける。〈168〉 | (5) 参上する |
| (6) 早う御文も御覧ぜよ。〈154〉 | (6) ご覧になってください |
| (7) げに <u>ただ人</u> にはあらざりけり。〈43〉 | (7) なるほど「本当に」 |
| (8) 木霊などいふ、けし <u>からぬ</u> かたちも現るものなり。〈280〉 | (8) 異様な |
| (9) 皇胤なれど、姓たまはりて、 <u>ただ人</u> にて仕へて、位につきたる例やある。〈310〉 | (9) 臣下 |
| (10) 忠岑も禄たまはりなどしけり。〈162〉 | (10) いただき |
| (11) はかなき御なやみと見ゆれども、かぎりの <u>たび</u> にもおはしますらむ。〈268〉 | (11) 最期 |
| (12) 道もさりあへず立つ折もあるぞかし。〈196〉 | (12) 避け |
| (13) 三月の <u>つごもり</u> なれば、京の花、盛りはみな過ぎにけり。〈118〉 | (13) 月末 |
| (14) 親王、大殿 <u>ごも</u> らで明かしたまうてけり。〈176〉 | (14) おやすみになら |
| (15) 十一月、十二月の降り凍り、六月の照りはたたくにも、さはらず来たり。〈190〉 | (15) 妨げられ |

(16) 四月に内裏へ参りたまふ。〈169〉

(17) 心地惑ひにけり。〈70〉

(18) 持仏据ゑたてまつりて行ふ尼なりけり。〈73〉

(19) 祇王もとより思ひまうけたる道なれども、さすがに昨日今日とは思ひよらず 〈141〉

(20) 何とにかあらむ、かきくらし涙こぼる。〈198〉

(21) つたなく弾きて、弾きおほせざれば、腹立ちて鳴らぬなり。〈224〉

(22) かくて、翁やうやう豊かになりゆく。〈46〉

(23) やんごとなき女房の、うちそばみてゐ給へるを見給へば、わが思ふ人なり。〈187〉

(24) 帝よりはじめ奉りて、大臣公卿みな悉く移ろひ給ひぬ。夜に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさとに残りをらむ。〈258〉

(25) むげにいろなく、いかにのり給ひけるぞ。〈298〉

(26) その（弘徽殿の）御方に、うちふしといふ者の娘、左京といひて候ひけるを、源中将かたらひてなむと、人々笑ふ。〈188〉

(27) 墨染めのお姿あらまほしう清らなるも、うらやましく見たてまつり給ふ。〈75〉

(28) いかですることは知りしぞ。〈50〉

(29) しばし見るもむくつけければ、住ぬ。〈289〉

(30) こなたはあらはにや侍らむ。今日しも端におはしましけるかな。〈102〉

(16) 参上し

(17) 乱れ

(18) 仏教の修行をする

(19) そうはいつでもやはり

(20) 悲しみが心を暗くする

(21) 下手に

(22) だんだん

(23) 横を向いて

(24) 古都

(25) 情趣

(26) 交際し

(27) 理想的に

(28) どうして

(29) 不気味である

(30) 丸見えで